

### 時空を飛び(3)

ベランダ雑感(記) H・IMAGINE

ベランダからの景色で、風がそよともしない時がある。木々の葉も微動だにせず人や生き物の姿も無く、車も無く、気味悪いほどの全停止をしている。全景色がまさに動かない静物である。

時間さえ、停止しているんじゃないかと、錯覚してしまう。

もちろん、この停止は見掛けた……………

#### 地球の自転が急停止したら

景色が止まっているとあって、宇宙では地球自体がかなりのスピードで自転していることは学んで知っている。

しかし、もし自転が急停止したら、どうなるのか？

飛んでもないことになる、いや飛んでも無いスピードで飛んで行ってしまうことは想像が付く。

調べてみた。

地球の自転の急停止。地球はまああるので、北極・南極点はあまり影響は無いそうだが、日本辺りでは時速一千数百キロの自転スピード(新幹線の5倍ほど)が急停止した反動で、固定されないものは東方向へ同等のスピードで放り出されるだろうという。これが一定速度の慣性で、勢いそのままの力が働くそうだ。緯度が低くなればもっとスピードは増し、赤道では甚大な影響を受けるといふ。

今、すべてが停止したかのような景色も、実は宇宙から見れば、普段は飛んでもないスピードの中で日がな経過している訳で、慣性という定速を維持してくれている地球の自転の有難さを思う。

ところで、「慣性」と「惰性」。

物理学では、同じような意味を持つそうである。動いているものは同じように動き続け、止まっているものはそのまま止まり続ける。ただし、抵抗力のある空気も存在しない宇宙空間で、且つ他の強力

な天体からの影響を受けない状態に於いてである。

なお、情性は日常生活でも使われるが、マイナスイメージを伴う点が大きき違い。それは身に染みるほどよく分る。

ここで、停止していた景色に変化が起きた・・・・・・・・・・  
向こう側の歩道、左上から、とぼとぼとお年寄りが一人視界に入ってきた。他は相変わらず一切動きの無いまま。

停止したかのような自然の中で独り歩いて行く、彼を見つめていると周りの景色は彼と同じ速さで後方へ退いて行く。

そこに今度は、一台の車が車道を通り走りお年寄りを追い抜いて行った。しばらく僕の目は車を追っていたので、彼は素早く後方へ飛んだような感覚を覚え、景色はもっと早く去った。

そこに、いつの間にか一筋の太陽光が差し込んでいた。速さなど感じない速さで・・・・・・・・・・

光は別にして、まさに相対的な関係をこの眼で見たと思った。そこで、あれが気になった。そう、「相対性」である。

見当違いかも知れないが、「相対性」とは、自・他の関係や比較をする際に片方からの判断では的を得ない、絶対は無いということか？その辺と光の存在と、さらにその先の理論を知りたいと思った。

### 昔、三現主義。今、空理空論の閑人。

以上、ヒマジン(H・I・M・A・G・I・N・E)で無ければ考えもしないような机上の空論を縷々と述べてしまったが、僕は現役の時、広告分野の仕事に身を置き、また一時のサービスマン業界でも、三現主義だった。現場に行つて現物を見、現場の生の声を聞き、市場調査をして現実を知ろうとしたスタンスだった。机上の空論など弄したことは無かった。

しかし今、こうした空理空論も悪くは無いと思つている。

(続く)